

2007年能登半島地震に伴う地殻変動連続観測結果

Strain change observed by the extensometers associated with the Noto-peninsula Earthquake on March 25, 2007.

大谷 文夫 [1]; 森井 互 [2]; 和田 安男 [1]; 竹内 文朗 [3]; 尾上 謙介 [4]; 中村 佳重郎 [5]; 細 善信 [6]

Fumio Ohya[1]; Wataru Morii[2]; Yasuo Wada[1]; Fumiaki Takeuchi[3]; Kensuke Onoue[4]; Kajuro Nakamura[5]; Yoshinobu Hosoi[6]

[1] 京大・防災研; [2] 京大・防災研・地震予知; [3] 京大・防災研・地震予知セ; [4] 京大・防災研・地震予知研究センター; [5] 京大・防災研; [6] 京大・防災研・地震予知センター

[1] DPRI, Kyoto Univ.; [2] RCEP, DPRI, Kyoto-Univ.; [3] RCEP,DPRI,Kyoto Univ.; [4] Research Center for Earthquake Prediction,Kyoto Univ; [5] DPRI,Kyoto Univ.; [6] RCEP, DPRI, Kyoto Univ.

2007年3月25日の能登半島地震の際に中部・近畿地方に展開している京都大学防災研究所の観測所で観測された地殻変動連続観測結果を報告する。とくに震源近傍の宝立観測点では、地震発生の1週間前に電源回路の異常が発生したが幸いにも数日前に自然回復し、coseismic変化ならびに前後の変動を記録している。直前に大きな気圧の谷が通過しているのでその擾乱を受けているが、BAYTAP-Gにより可能なかぎりその影響を取り除いた結果を示す。